

第9回8020童話賞
一般の部 「最優秀賞」作品

「新幹線はみがき」

おもしろはみがきコンテスト

日時/11月8日木曜日 10時から

場所/こぐま歯科

優勝した方にはトロフィー、おもしろ電動歯ブラシ1本、歯磨き粉1年分、遊園地入場券4枚をプレゼントいたします。

審査員/こぐま歯科医院長

参加される方は当日、開始時刻までにお集まりください。

ママは歯医者さんの窓に貼つてあったチラシを大きな声で読みました。

「しゅんくん、このコンテストにパパと一緒に出てみようか。おもしろい歯みがき競って、優勝したら遊園地に行けるのよ。」

「ほんと？ 僕、出る。優勝するよ。でも、おもしろい歯磨き粉ってどんなの？」

「それはパパにまかせておけば大丈夫よ。じゃあ決まり。明日の10時にまたここに来よね。」

ママとしゅんくんは家に帰りました。

次の日

パパとママとしゅん君は10時にこぐま歯科へ行きました。

歯科産院の中に入ると、しゅん君と同じくらいの子供たち、しゅん君よりちょっと大きい子供たちがたくさん集まっています。

そして、みんないろいろな物を手に持っています。サッカーボール指人形、クマのぬいぐるみ、大きなパスタオル、CD、赤い小さな椅子、なにやらシヤカシヤカ音がなる楽器を持った子もいます。

しゅん君は不安になりました。

僕は何も持っていない。
パパも何も持っていない。
どうしよう。

「パパとしゅん君は1番最後、15番目よ。」
ママが嬉しそうな声で言いました。

「15人？そのなかで1番にならないといけないの？」

しゅん君はますます不安になりました。

「パパとしゅん君ならきっとできるわよ。ねえ、パパ。」

「そうだよ。しゅん、パパの言う通りにしていれば大丈夫夫。」

しゅんは、楽しそうにしている。

それで、歯磨きがおわったらとびっきりの笑顔でみんなを見るんだよ。わかったね。」

「わかった。ぼく、やるよ。」

しゅん君は自を閉じて、手のひらを合わせてお祈りしました。

遊園地の入場券、もらえますように。

「それではただいまより第一回おもしろ歯磨きコンテストを開催いたします。みなさん、静かに見てくださいね。発表が終わった時は大きな拍手をしてください。1位の人には素敵な賞品がありますよ。頑張ってくださいね。」

しゅん君たちは会場の一番後ろに座りました。僕は楽しめばいいんだ。

それでもしゅん君の心臓はパクバク大きな音をたてています。パパはともりラックスしています。ママはデジカメを取り出してなにやら操作しています。

エントリーナンバー1番の子の発表が始まりました。

しゅん君と同じくらいの子。

音楽をかけました。さわやかな感じのダンスミュージック。

歯をみがきながらステップをふみ、ポーズを決め、とっても楽しそう。

2番目は男の子。真っ黒に日焼けしています。サッカーボールをけりながら歯をみがき始めました。

3番、4番、5番・・・

しゅん君は、ドキドキ。

「エントリーナンバー15番、しゅん君」

ついにしゅん君の出番です。

ママはカバンから小さな箱を取り出し、パパに渡しました。パパはママにウインクしました。

パパとしゅん君はみんなの前に立ち、おじぎをしました。それからパパは小さな箱を空けました。

中から出てきたのは新幹線の形をした歯ブラシ。

「しゅん、口を空けて。」

では、いくよ。

この列車は、東京発のぞみ号博多行きです。

ご乗車の方はお急ぎください。

安全確認、よし。ピピー。

プシュープルルルル。ブーーン。ン

ゴシ、ゴシ、ゴシ♪

ゴシゴシゴシ♪

キュツキュツキュッ、♪

パパは歌いながらしゅん君の歯をていねいに磨いていきます。

奥歯をゴシゴシ♪

前歯はシャカシャカ♪

奥歯をゴシゴ♪

前歯はシャカシャ♪

横浜、横浜に到着です。

プシュー。プルルルル。ブーン。

歯と歯のすきま、ゴシゴシゴシ♪

きれいにきれいにゴシゴシ♪

虫歯菌はいないかな。

車内アナウンスです。

右手に富士山が見えますよ。写真を撮りたい

人は急いでください。

シユツシユツシユッ

名古屋、名古屋です。

歯ブラシ新幹線はまだまだお口の中を走るよ。次は京都に止まります。キュキュー。車両の点検をします。しばらくお待ちください。

パパは歯ブラシにお水を含ませます。

発車します。この列車は大阪、神戸、岡山、

広島に止まり、終点博多に到着します。

しゅん君は足をパタパタさせて喜びます。

歯みがき歯みがきキュツキュツキュ。

最後の仕上げにシユツシユツシユ♪

終点博多です。

みなさん、おりてくださーい。

ご乗車、ありがとうございました。

「しゅん、終わったよ。」

しゅん君はとびっきりの笑顔で会場を見渡しました。

「ほく、新幹線だいすき。」

会場から大きな拍手が沸き起こりました。

「パパすごいや」

しゅん君はパパにウインクしました。

パパもしゅん君にウインクしました。

席に戻るとママがしゅん君を抱きしめました。

「しゅん君、最高だったよ。」

しゅん君はほっとしました。

「。ハパの歯はみがき、本当に楽しかった。」

こぐま歯科の院長が出てきました。

「みなさん、発表ありがとうございました。

どの子も楽しく歯みがきできていましたよ。

でも、ここで1位の人を決めなければいけません。

優勝は、エントリーナンバー15番、しゅん君

です。おめでとう。」

医院長はトロフィーを手渡しました。それから

小さな箱と遊園地の入場券をしゅん君に渡

しました。

しゅん君は大喜び。見事遊園地の入場券を手

に入れたのです。

家に帰って、しゅん君は小さな箱を開けまし

た。

なんと、新幹線の形をした電動歯ブラシが入

っていたのです。その歯ブラシには星形のボタンが3つついていました。

1つ目を押すとライトが点きました。これは口の中を見るのにとっても便利です。

2つ目を押すと、

「この列車は、東京発のぞみ号博多行きです。」

なんと、電動歯ブラシが喋りました。

3つ目を押すと、

「プシュープルルルル。ブーン。」

音が鳴った後、小刻みに動き出しました。

「しゅん君、毎日ほみがきが楽しみだね。」

ママはしゅん君をギュツと抱きしめました。

「しゅん、楽しむって大切なことだよ。」

パパもしゅん君をギュツと抱きしめました。

おしまい